



ほんものを たべよう

提出日	8/	火	水	木	9/	金
	29	30	31		1	
配達日	9/	火	水	木	金	
	5	6	7	8		
翌々週分配達日	9/	火	水	木	金	
	12	13	14	15		

オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

Alter Weekly Order Catalogue

2023.9月2週号

野菜

自然栽培をやめる時は 農業を辞める時

自然の恵みのままの農業

伊藤農場

文責 西川 榮郎(オルター 代表)

究極の自然栽培

とくろぐんくねつぶ
北海道常呂郡訓子府町の伊藤農場、佐藤 哲義さんは、約20ヘクタールの畑で農薬・肥料(有機肥料も含めて)、堆肥など畑に何も投入しないで究極とも言うべき自然栽培を行っています。

栽培品目はとうもろこし(品種ゴールドラッシュ F1 購入)、じゃがいも(さやか・自家採種、きたあかり・自家採種もしくは購入、男爵・自家採種もしくは知り合いからの種芋)、かぼちゃ(えびす、雪化粧 F1 購入)、人参(向陽、ライム五寸、天翔 F1 購入)、小麦、大豆など、いずれも絶品です。

この農業が世の中に必要とされるのであれば

伊藤農場は佐藤 哲義さんの祖父が現在の場所で農業を始めました。1990年からは実父 故伊藤 秀幸さんが有機農業に取り組み、作物のことを考え、「農薬や肥料はなくてもできる、必要ない。」と引き算をして自然栽培にたどり着きました。「人間なら農薬がけられたら怒る。作物も同じ。」とよく人に例えて説明していたそうです。佐藤 哲義さんは伊藤 秀幸さんが亡くなられる少し前に畑を託されました。農業をはじめた35歳の当時、介護職に従事していて視野を広げたいと考え、一度退職した時でした。農業の経験は、父を少し手伝ったことがあるくらいでした。

父から「この農業の先が見たいのでやって欲しい」と頼まれ、自らも「この農業が世の中に必要であればつないでいきたい」と思い、引き受けました。現在も父の志を継ぎ、自然栽培に取り組んでいます。自然栽培をやめる



伊藤農場の佐藤 哲義さんと伊藤 陽祐さん

時は農業を辞める時だと思っています。

農場では義母の伊藤 喜代美さん、今年から弟の伊藤 陽祐さんと働いています。夏の間は、80歳

のおばあちゃん方、出面さんが草をとってくれています。皆元気いっぱい若い人より働きます。

不思議な農場

伊藤農場は不思議な農場です。自然栽培を始めて23年になりますが、この間、全く有機肥料を含めてどんな肥料も畑に投入されていません。それでも立派に作物が実っているのです。その意味を故伊藤 秀幸さんに私がかつて問いかけたことがありましたが、「自分の畑では自然にエネルギーが溢れてくるのだと思う」と静かに答えておられたのが印象的でした。始めてから23年間もこんなシンプルな農法が実現しているのですから、まさに達人の域としか言いようがありません。

一株に1本しか収穫しません

とうもろこしの自然栽培では、やはり収量に問題があり

ます。株間をしっかりと、一株から1本しか収穫しません。また、狐やカラスの被害もあります。北海道の広大な大地とはいえ、1平方メートルからよくて3本しかとれません。大地の旨みがギュッと凝縮したとうもろこしを朝一番に収穫し、そのまま予冷して発送しています。ミルキーで甘いだけでなく、柔らかさも果物のように、生でかじるとジューシーです。

若き自然栽培農家を応援したい

北海道における自然栽培のお手本のような農家のお一人であることは、間違いありません。

この素晴らしい伊藤農場を引き継いで4作目の、若き佐藤 哲義さんの今後に大いに期待しています。

会員の皆さまには超貴重で絶品な、自然栽培のとうもろこしをまずはご賞味あれ。

